

詩の自由を探る

藤井貞和

内容理解

この文章で筆者は、「詩的な表現」という広い視界で詩の伝統を見通し、高い精神性に支えられた詩的な世界の広がり説明している。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

「らしさ」に思いを込めた「詩」

《詩的》《詩のような》《詩を感じさせる》などの親しまれた表現は、言語に沿っての、

美しさの を感じとって《詩らしさ》と言い換えられる。

「詩らしさ」で眺めやる視界

○歌謡・短歌・ ・漢詩・近代詩・現代詩 も詩である。

○民謡・琉歌や、「し」と呼ばれる、若者文化を支える音楽の とも重なる。

○行為や自然、花や鳥、石の色、結晶の美、そして音楽や絵、小説や物語についても、

《詩的》《詩のような》《詩を感じさせる》という言い方が用いられる。

《詩を感じさせる》ということ

・こちら側にある「詩」

(詩を感じさせると言うとき、こちら側が のうちに詩を作ったり、過去の詩を心の中に再現したりしている。)

(詩を感じさせると言ってみたくとき、感動的な行為や美しい自然、清らかな花や快い鳥の声、もの言わぬ石の地表への表れ方、心を震わせる や絵を前にしての、言葉で言い表せないという思いがある。)

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

一般(三六・二)

再現(三七・十)

衝動(三八・一)

創作(三八・一六)

要旨

筆者の考えの中で最も大切と思われることを、指定された言葉を使って、百字程度の文章にまとめてみよう。
〈指定語——詩らしさ・心の調べ〉

100

・詩の⁶
「うたう」という衝動

だれに聴かれなくともうたう 例…イヨハイオチシ

↓他人に聴いてほしい、他人と⁷
したいという思い

・社会的に機能するうた 例…求婚⁸
の分類としての歌垣

例…『万葉集』の相聞・歌合

(行き来して成り立つという⁹
は、うた文化の基本であり続ける。)

・「詠む」うた 例…『万葉集』のうた・『源氏物語』浮舟の君の手習い歌

独詠となつて¹⁰
と対話し、心の調べとも言うべき高い精神性が支えられる。

・書くことを基本とする近代詩や現代詩

書くことによって現れた空白は、心の調べを響かせる空間である。……………

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

・アイヌの歌謡、さらにイヨハイオチシはどのような歌か。

・『万葉集』の相聞には、どのようなものがあるか。

・『源氏物語』手習巻の主人公浮舟はどのような人物で、和歌とどのように関わるのか。